

チュチェ哲学が示した自力更生の精神 — 朝鮮半島の統一をめぐる諸問題 —

アフリカ・チュチェ思想研究委員会理事
ナイジェリア金日成・金正日主義研究全国委員会委員長
アルハッサン・マンマン・ムハンマド

概要

朝鮮半島の統一の展望と挑戦について考察しようと思います。

1950 年代の朝鮮戦争の前に、朝鮮は外部勢力によって分裂されました。研究結果は外部勢力の影響が分裂を助長し、それを持続させている基本要因であり、アメリカが朝鮮民主主義人民共和国にたいする制裁を撤回しない限り、朝鮮半島の統一を目指す努力がしかるべき結果を得なくなることを示しています。

アメリカが、この地域にたいする自己の横暴な影響を弱化させ、北と南の両政府をして民族の運命を自分自身が責任をもつようにすべきです。

序文

朝鮮民主主義人民共和国にとって強力な戦争抑止力を保有することは、いかなる国も共和国にたいする各種形態の侵略行為を画策できないようにすることによって、唯一の活路となります。

今日の視点でアメリカは、アフガニスタン、イラク、そして最近のリビア事態から教訓をくみ取るべきです。世界は、天然資源を略奪し平和を追求する無辜の人民を征服するために帝国主義者が使用した武器によって、苦痛をなめてきました。アメリカの行為は、地域の無秩序と無法を産生させる温床として、人類を絶滅の危機にさらしています。

朝鮮民主主義人民共和国は、自己の運命を自分の手に掌握することにしました。国連憲章には、すべての国家は実行に適すると見なされる政治制度を選択することができ、いかなる場合にも相対的に大きな国が弱い国家を抑圧してはならないと指摘されています。

朝鮮半島の統一：展望と挑戦

長い間、学者と分析家は、朝鮮半島の統一問題について没頭してきましたし、特に地域的統合、つまり統一を促進させるために、北と南が同等の基礎の上で互いに連携を持ち、意見を交わす必要があると見ました。朝鮮半島の統一展望の中

で一つは、北と南が高度技術機械設備を生産しうる高度技術を保有しているということです。実例に、核技術は北と南で電力工業をはじめ、経済部門に必要な、安定的な高圧電気生産を可能にする方向へと転換できます。これは地域的および国際的消費に必要な大量の製品生産とサービスを可能にするでしょう。宇宙探査は今一つの重要な分野として、宇宙にたいする探査を正確におこなうようになれば、北と南をして早期警報信号を通じて気候変化による挑戦を緩和させ、任意の大きな災難を防ぐための適切な予算案を作成できるようにするでしょう。

北と南は去る数年間、コンピューターのソフトウェアとハードウェアの生産と販売で好評を博してきました。北と南が統一を実現すれば、平和と安定にたいする互いの信頼がより厚くなり、軍備競争と兵器の備蓄はもう通用しないでしょうし、統一された北と南は共同の利益のための経済活動を活発におこなうようになるでしょう。

核技術は、医学的診断と疾患治療の検証をはかる精密医療器機の生産に利用できます。こうなれば、地域は治療の中心地域に、熱帯および近代的な医療条件が整えられた世界的な地域となるでしょう。

挑戦

南朝鮮駐在のアメリカ共同使節団は、朝鮮半島の統一を阻む脅威となるだけでなく、緊張をより激化させ、危機が悪化する事態に殺戮兵器が使用される可能性をより高めています。

南朝鮮に軍事使節団を駐屯させている行為一つを見ても、専門家と学者たちは、それが地域における偶発的な事態に対応するための一つの予備的軍事戦略であることを確信しています。

アメリカは情報を収集して自己の力を誇示しようというところから、自己の地政学的拠点を南朝鮮から日本へと拡大することに利害関係をもっています。

呆れたのは、アメリカが自己の影響力を行使しては国連をして、朝鮮民主主義人民共和国に対して核計画を留保するよう圧力を加えようとしていることです。アメリカは、自らの兵器備蓄には狂奔しながらも、他国は兵器をもってはならないと主張しています。

2018年6月シンガポールであった金正恩総書記とトランプ大統領の首脳会談以後、アメリカと朝鮮民主主義人民共和国間の緊張は少なくとも一時的には解消されていました。首脳会談は、アメリカと朝鮮民主主義人民共和国が戦争へとつながるような措置は避けるでしょうし、朝鮮民主主義人民共和国の核脅威が今後の協商を通じて解消されるだろうという希望を与えていました。両首脳は、

まるで個人的な関係を結んだようでした。また両首脳は、朝鮮民主主義人民共和国が「朝鮮半島の完全な非核化に向かって努力」し、朝鮮半島に恒久的で強固な平和体制を構築するために共同で努力するだろうということを確約した共同声明に署名しました。

統一のための努力を妨害する経済制裁

朝鮮民主主義人民共和国にたいするアメリカの現在の経済制裁は、大きく功を奏していません。制裁にもかかわらず、朝鮮民主主義人民共和国は、諸国との関係を引き続き維持しています。

現実的に朝鮮民主主義人民共和国にたいする経済制裁は、朝鮮民主主義人民共和国をさらに強くし、自力更生して制裁の中でも生きていけるようにしました。

チュチェ哲学が示した自力更生の精神は、人々をして完全な政治的自主性、経済的自立、軍事的自衛を実現することにより、自己の運命を自分の手に掌握するようになります。

アメリカとその同盟国は、国家の尊厳を尊重すべきであり、一国の内政にやたらに干渉する行為を止めなければなりません。